

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	利用者個別の状況に応じ、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟な支援を行っている。 自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①利用開始初期の写真を家族に渡すことによって、利用開始初期の不安軽減に努める</p> <p>②本人の趣味や興味など知りえたことはフェイスシート、申し送りなどで共有する</p> <p>③知りえた情報は共有する為にフェイスシートに記入していく</p>	<p>①日頃のレク参加時にできるだけ写真を取り、家族に渡したり誕生日のプレゼントに貼って渡すことができた。 ・令和2年6月～令和3年6月の間に契約した利用者は8人。うち完全な新規の方は3人。利用拒否が強くみられた。いずれも経過とともに落ち着き、その様子を写真で渡すことで安心されていた。</p> <p>②介護認定更新時にフェイスシートは更新しており、更新時は申し送りで周知している。認定調査資料により知りえた情報のみではなく、日々実践の中で知りえたことも適宜記入している。 ・知りえた情報はフェイスシートによく反映されている。 ・フェイスシートを読むことができていない。</p> <p>③情報共有はできている。ケアマネによりマメにフェイスシート更新がなされているし、朝の申し</p>	<p>・利用者の目標（ゴール）に関する情報共有ができていないという反省が多いのでフェイスシートなどを活用して取り組んでほしい。</p> <p>・コロナ禍を踏まえて地域の関わりや職員の質の向上を意識した計画になっていると思う。</p> <p>・スタッフと接する機会がないのでわかりづらいが、利用者の方たちの表情をみていると自己評価に取り組んでいることが伺えます。</p> <p>・体が衰える、脳が弱る、食事がだらしがないなど老いていく人たちに寄りそうことは大変な作業だと思います。心を通わすということを念頭において、これからも地域の為に頑張ってください。</p> <p>・事業所評価を真摯に取り組んでおられます。</p> <p>・自己評価の内容が利用者の方を第一に考えている点が素晴らしいと感じます。</p> <p>・情報共有の方法が大変具体的で</p>	<p>①利用開始初期は利用者・家族の不安を軽減するべく、対応についてミーティングを重ねる。</p> <p>②日々の関わりの中で、利用者の希望を聞き取るよう意識した対応を行い、知りえた内容は記録・フェイスシートに記入し共有する</p> <p>③知りえた情報をフェイスシートに記入することを徹底する。</p>

	<p>④推進会議で培ってきた地域との関係を維持する</p> <p>⑤柔軟な支援は十分行えているのでこれを継続する</p> <p>⑥引き続き、研修に積極的に参加していく</p>	<p>送りなどで何かあれば都度話し合いどのような支援が適切か常に話し合って支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェースシートにはよく記載されていると思う。 <p>④民生委員から相談があった利用者について、会議の場でメンバーより情報を集め、支援につなげることができているし、利用し始めてからも会議の場で情報をもらうことで適宜対応できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所だけでは把握できていない利用者の姿を知る機会として運営推進会議が役に立っている。 ・継続し地域の方も参加され今までの関係は維持されている。 <p>⑤配食のみの利用、午後からの利用、または午前みの利用。予定外の利用などその時、その人の状況に応じ支援行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に捉われず、早朝や夜間、休みの日に利用者が来所しても受け入れている。 ・家人の事情に合わせて通い、泊まり、訪問を組み合わせ提供できている。 <p>⑥令和2年度は新型コロナウイルス禍により研修や会議など中止になり参加できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による影響で、職員を研修等に派遣することができなかった。 	<p>分かり易いと思います。</p> <p>・地域のイベントなどはこのコロナ禍のご時世なので参加を控えた方がいい。</p>	<p>④コロナ禍により地域に出向くことは難しいが、見守り隊・民生委員の方々と推進会議等の機会を持つことで関わりを維持していく。</p> <p>⑤利用者、家族の要望に応じた柔軟な支援を今後も続けていく。</p> <p>⑥コロナ禍収束までは利用者の地区イベント参加は困難であるが、職員の派遣については要請あれば適宜参加する。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>⑦多様な方が参加し意見を交わす現在の推進会議の形態を維持していく</p> <p>⑧職員会内の自己研修会を継続する</p> <p>⑨業務上の職員間の情報交換は利用者の傍で行わぬようにする</p>	<p>⑦運営推進会議には多様な立場の方が参加され、現在の形態を維持することができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策など報告し地区の方と意見を交換することはできている。中止になった5月、1月、3月については書面開催とし事業所の状況について報告は行っている。 <p>⑧月1回の職員会議の際、職場内研修を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事中に早く他の職員やリーダーに伝えようと、つい話してしまう。 ・小声で話すよう配慮はしているが、狭いスペースなので限界はある。 <p>プライバシー保護の為利用者がある所で申し送りをするときは個人を特定できないように名前を伏せたり小さな声で行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研修の為に youtube を利用するのはコロナ禍であるだけでなく、時間短縮など有効な方法だと思う。 	<p>⑦新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、可能な限り推進会議を継続していく。開催できない時は書面配布対応を行う。</p> <p>⑧youtube等を活用した各職員の自己研修を実施。研修報告を職員会で報告し共有していく。</p> <p>⑨引き続き業務上の職員間の情報交換は利用者の傍で行わぬことを徹底する。</p>
<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が落ち着くまでは消毒、検温など徹底し感染予防に努める 	<p>朝・昼・夕・夜間に事業所内利用者、職員が触れる手すりなど・椅子、テーブル全て消毒液で拭く。定期的な換気、利用者、職員、来客の検温、手指消毒、マスク着用を継続して実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の入退室時、職員・利用者が気持ちのいい挨拶をして下さるのが印象に残っています。 ・改善計画に基づいて業務が遂行されているのがよくわかります。 ・コロナ禍ということもあり、消毒、検温はこまめに、そして丁寧に実施されているのがわかります。 ・八幡浜市でもオミクロン株による感染が拡大して言いますが、施 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、消毒・定期的な換気、検温など徹底し感染予防に努める。

			設・従業者は勿論入所者に対する感染予防対策にはこれからも十分注意してください。	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協と独居で暮らす方々について話し合う機会を作る 	令和3年1月に改善計画策定したが、直後より新型コロナウイルス禍が長期化したため実施には至らず。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の挨拶はどのような仕事の時でも大切なことだと思います。めぐみの職員の方はとても素晴らしいと感じます。 ・めぐみは真穴地域になくてはならないものになっていると感じます。 ・職員の挨拶の項目について、誰が職員かを把握していないので外で出会っても職員かどうかわからない。 	見守り隊、民生委員、地域の方々と今まで培われてきた協力関係を維持していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協、民生委員等と地域の方について情報交換行う機会を持つ 	令和3年1月に改善計画策定したが、直後より新型コロナウイルス禍が長期化したため実施には至らず。	<ul style="list-style-type: none"> ・恒例の行事だけでなく、利用者とその日の状況に合わせてドライブに出かける等外出の機会を持つように柔軟な対応をされているのがいいと思う。 ・コロナ禍にも関わらず、できることを最大限にやっていると感じます。 ・施設内だけで生活していると、やはり外の世界とのつながりが希薄になります。出来る限り完全対策を講じながら出かけるのはとても大切なことだと思います。 	地区内の商店への買い物や近所への散歩、ドライブなど利用者と地域に出る機会を増やし、利用者と地域のつながりを維持する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で心配な方やその時々懸念事項などについて意見を交わせる現在の形を維持していく。 ・コロナ禍が落ち着いたら従来通りの会を持つ。 	推進会議では多様な立場の参加者と意見交換を行えている。新型コロナウイルス禍により3月、5月、9月は書面開催としたが、7月、11月と開催可能な状況であれば開催している。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議参加者それぞれの立場から心配な方や直近の困りごと、トラブルなどの共有が出来る場になっている。 ・基本的に対面での開催とし、令和4年1月のように状況に応じて書面とするなど柔軟な対応をされており、会議での意見交換を大切にされている印象を受ける。 	<p>地域の中で心配な方やその時々懸念事項などについて意見を交わせる現在の形を維持していく。</p> <p>対面での会議開催を基本とするが、新型コロナウイルスの感染等状況によって書面開催にするなど柔軟な対応を取り会議を維持していく。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・会議では資料にないような日常の取り組みなどの話も聞くことができるのがいい。 ・活動報告を聞く度にめぐみはこの地域になくってはならない存在だといつも思っています。 ・事業所の運営説明はとても分かり易いです。 	
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災訓練を定期的 に実施する ・自主防災会と話し合う機会 を持つ 	防災訓練を6月に火災避難通報訓練、土砂災害訓練、10月に火災避難通報訓練、土砂災害避難訓練を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点でどれくらいの職員が通報機器を扱えるのか気になる。 ・身体の不自由な人たちを高所へ運ぶことはとても困難な作業だと思います。大きな災害が来ないことを願うばかりです。 ・いつ起こるか分からない災害だからこそ準備が必要だと思います。よく訓練をされていると思います。 ・「火災、地震、津波」といつ起こるか分かりません。災害の規模にもよりますが訓練こそが身を守る術だと思います。 ・令和4年1月22日午前1時に八幡浜で震度4の地震がありましたが、夜間預かっている入所者がいたと思います。その時の退所はどうされたか、また今後の対策など話し合ったか気になります。 	4月・10月に火災避難通報訓練、7月に土砂災害避難訓練を行う。またそれとは別に通報機器の取り扱い訓練を2か月に1回程度行い全職員が通報機器が扱えるようになる。

